



すみだだより

令和8年7月17日 校長 深谷純一

「社会に開かれ地域と協働する学校とは」

本校は学校経営計画の中期目標として「開かれた学校として、地域の特別支援教育を推進し、共生社会の実現に寄与する。」と掲げています。その取り組みを何点かご紹介します。

【センター的機能の発揮】

従来から特別支援学校としてのセンター的機能の発揮として、幼稚園や保育園等の就学前の機関からの就学に関する相談や、区立の小・中学校からの支援の要請に対し柔軟な転学を含め、特別支援教育コーディネーターを中心に実態の把握や指導、教材等に関する助言等の支援活動を行っており、昨年度の電話対応等も含む特別支援教育コーディネーターの対地域相談対応件数は300件に上ります。また今年度から新たに都立高校における障害のある生徒への支援体制として、都立版エリアネットワークの拠点校となり、東京の東部地域や島しょの都立高校の支援に取り組んでいます。

【組織的な人材育成】

学校は、将来教員となる大学生を、教育実習を通じて養成する役割を担っています。前年度のうちに何名の教育実習を受け入れることが出来るか調整しますが、今年度本校は児童・生徒数が増えたため職員の執務スペースが狭小となり一度に多くの教育実習を受け入れることが難しく、年間を3期に分け合計7名の受け入れを進めている他、教職大学院や東京都の制度である教師養成塾、個別の大学の制度である往還型実習により長期のインターンシップも受け入れています。また、教員免許を取得するための2日間の介護等体験では500名以上の大学生の受け入れを進めています。その他にも、特別支援学校の授業を見学したい、取り組みの話を聞きたいとの要望等、ボランティアを含む様々な形で未来の特別支援教育を担う人材を組織的に育成しています。余談ですが、児童・生徒にとって年齢の近い大学生が関わって下さっていると、嬉しい様子もみられます。

※この10年間で全校児童・生徒数150名増、とくに小学部の児童増加が顕著で、小学部が20学級増となっており、墨田地区第二特別支援学校（仮称）開設が延期したことも相まって、仮設校舎を設置してもなお間仕切り教室を増やさなければならない状況です。保護者の皆様にはご不安とご心配をお掛けしておりますが、東京都教育委員会に支援を求めつつ、施設利用や学習集団編成の工夫、指導の際の配慮の工夫等、ソフト面で出来る最大限の努力で教育の質の担保に取り組んでいますこと、ご理解いただければと存じます。

【開かれた学校】

卒業生を含む地域の障害のある方向けに3講座各年3回の公開講座の実施や、同窓会や障害者団体への施設の貸し出しを行っています。従来から障害者雇用関連の企業の見学や、昨年度は200名を受け入れた小・中学部への就学や転編入を前提とした学校公開や見学会を実施してきた他、放課後等デイサービス事業所向けの見学会、また今年度新たに高等部への入学に特化した説明会を開催する等して、地域に広く本校の特別支援教育の理解啓発を図っています。その他に、夏季休業中には、学校を会場とした保護者向け通学区域4区の福祉説明会の開催や、主に小・中学校の先生方を対象とした地域向け特別支援教育研修会を開催しており、今年度は新たに墨田区の施設を会場としてより多くの方にご参加いただけるよう工夫しています。コロナ禍で縮小した文化祭の来客受け入れも徐々に拡大し、今年度はほぼ制限なしで行う予定です。児童・生徒の活動としては、東京都の制度として小・中学部の児童・生徒が在住地域の小・中学校で交流する副籍や、墨田区立八広小学校と寺島中学校との相互交流、高等部は都立墨田川高校や日本橋高校と生徒会を通じた作品展示の交流も行っています。

これまでご紹介した取り組みの他にも、防災や防犯に関して年に複数回、消防署や警察署、墨田区や地域の自治会との会合を通じて具体的な課題解決について協議していることや、様々な関係機関の方に委員となっていたりしている学校運営連絡協議会から、本校の取り組みを評価していただき、学校経営の改善への提言を受ける等して、学校の教育力の向上と地域への還元に取り組んでいます。また、地域の特別支援教育や福祉施策に対し意見を求められることもあり、例えば相談支援事業の拡充を求めていく等、普段保護者の皆様から伺っている課題を集約し、自治体に情報提供も行っています。文章のみでご紹介が長くなり恐縮ですが、保護者の皆様に直接お伝えする機会が少ないことから、今回取り上げさせていただきました。

「水の科学館に行ってきました」 小4 遠足

小学部4年生は、7月2日（木）に「水の科学館」へ遠足に行ってきました。事前学習では、水の科学館の写真を見たり、教室やベランダで友達と水遊びしたりして、館内での約束やルールを学習しました。また、学校の周りを友達や教員と手をつなぎ、並んで歩く練習もして、準備万端で出掛けました。

当日はアクアパークで水鉄砲や水車で遊んだり、実験コーナーで大きなシャボン玉の中に入ったりして、様々な体験を通して、笑顔がたくさん見られた一日でした。事後学習では、写真を見ながら楽しかったことを発表しました。また、コラージュを作り、思い出を作品に残しました。

（小学部4年：野崎 真子）



「本所防災館での防災体験」 中1 社会見学

中学部1年生は、6月26日（金）に本所防災館へ行ってきました。過去に日本であった大きな震災についてのアニメーションを見た際、皆真剣な表情でスクリーンを見ていました。また、3つのグループに分かれて防災体験を行いました。暴風雨体験や都市型水害体験、地震体験、煙体験など、普段経験することの難しい経験をすることができました。

ちょうど帰校した給食中に、緊急地震速報のサイレンが鳴り、地震が偶然にも起こりましたが、生徒達は冷静に机の下にもぐり、だんごむしのポーズをとることができていました。

今回の体験を通して、身近な防災についてさらに知識や経験を深められるよう、今後も支援していきます。

（中学部1年：三木 和子）



「北星鉛筆東京ラボに行ってきました」 中2 職業見学

毎年、先輩方が見学に行っているという話を聞き、生徒みんなで見学に楽しみにしていました。事前学習では、見学時のルールやマナーを確認したり、クラスで質問を考えたりしました。

「鉛筆を作る時に、大変なことは何ですか？」や、「仕事をしていてうれしいことは何ですか？」等々たくさんの質問が出ました。仕事に関する質問から、これまで鉛筆工場ではどのような柄の鉛筆がつくられてきたのか、知的好奇心にあふれる質問が寄せられました。

期待が膨らむ中迎えた当日、工場の方の説明を真剣に聞く姿がありました。「鉛筆のBやHってどんな意味があるのか知っていますか？」「鉛筆の材料はどこから日本に来ているのでしょうか」等の貴重なお話を聞くことができました。鉛筆ができる時にたおがくずを粘土として再利用されていることも学びました。「働く」ことのほか、環境についての理解も深まった職業見学だったのではないのでしょうか。

（中学部2年：濱谷 文子）